

平成20年度予算編成方針の概要

1 本市を取り巻く財政環境と今後の見通し

国は「経済財政改革の基本方針2007」において、20年度予算を「歳出改革を軌道に乗せる上で極めて重要な予算」と位置づけ、これまで行ってきた歳出改革の努力を緩めることなく、国、地方を通じて最大限の削減を行うこととしている。

本市においては、基幹となる市税収入が税源移譲により底上げが図られたものの、国の歳出・歳入一体改革の影響により、地方交付税を含む一般財源全体としては減少傾向が続いており、先々の見通しが極めて不透明となっている。また、扶助費や他会計への繰出金も増加し、中期財政見通しにおいて、来年度は198億円程度の財源不足が見込まれており、依然厳しい環境におかれている。

2 予算編成の基本的考え方

～「市民の力みなぎる、文化と誇りあふれる街」の実現～

平成20年度予算は、市長の2期目において初めて編成する本格予算であり、「さっぽろ元気ビジョン第2ステージ」の実現に向けた確かな一歩を市民に実感していただけるような予算編成を目指す。

「第2次新まちづくり計画(案)」で予定している事業については、着実に実現するとともに、「行財政改革プラン(案)」に基づく取組について、内部効率化を中心に可能な限り前倒して実施する。

民間や他部局等と協働することにより、札幌市全体としてより効率的・効果的な事業展開ができるよう連携を図る。

3 予算編成のポイント

(1) 行財政改革の推進

局配分経費の設定

各局が主体的に予算編成を行う局配分経費として、次の経費の合計額を配分する。

- ・ 経常的経費については、次の合計額を前年度局配分一般財源額から減額して設定。
 - 「行財政改革プラン(案)」に基づく、20年度見直し可能一般財源額
(特に内部効率化に関する項目については、可能な限り前倒して見直しを実施する。)
時間外勤務手当や旅費、消耗品など、事務的経費の5%
(ただし、前年度局配分一般財源額が5億円に満たない局は半分の額とする。)
- ・ 臨時的経費については、各局のゼロベースからの事業再構築を促進するため、前年度局配分一般財源額から5%を削減して設定

(2) まちづくりの推進

「さっぽろ元気ビジョン第2ステージ」の実現に向け、「第2次新まちづくり計画(案)」に掲げる事業など、特に重要な政策課題に関するものについては、局配分経費とは別に予算要求を認める。

(3) 予算編成プロセス公開の充実

よりわかりやすい情報公開と市民意見等の募集

局のマネジメント機能の強化の観点から、各局において予算要求の考え方をまとめた「局予算要求方針」及び「予算要求の概要」を作成し、公開のうえ市民意見を募集する。

また、より多くの市民意見を予算編成の参考とするため、「予算要求の概要」を区役所等で配布するとともに、ホームページの掲載方法をより閲覧しやすいものに改善する。

(4) 基金の有効活用

「行財政改革プラン(案)」に沿って、未利用財産の売却促進や資産の有効活用を進めるとともに、まちづくり推進基金や土地開発基金などの開発系の基金についてさらなる積極的な活用を図るほか、果実運用型基金についても元金の支消を含めて活用していく。

(5) 建設債の発行抑制

市債要求枠の設定

将来世代に過度の負担を残さないため、主要公共事業等に充当する市債の額は、制度変更等がない限り、原則として、各局の前年度予算額から5%削減した額を上限とする。